

## 2万7千年前の埋没林の木株 展示について！

コロナウイルス コロナウイルスで2年が過ぎようとしています。うっとうしい日々が続いていますので、ちょっと日常と懸け離れた話題を載せたいと思います。

山形県を縦断する最上川の支流に上山市と山形市を流れる須川という川があります。(須川は酢の川で上流の鉾山跡から鉾毒水が流れ込み酸性が強く魚がすめません。)

南山形地区の須川で平成15年の洪水の後、川底から案内板の写真のように、木の杭のようなものが何本も現れました。地質調査と花粉分析の結果、2万7千年前の木の株ということが解りました。

2万7千年前は氷河期にあり付近一帯は雪の少ない寒冷状態でエゾマツ等の針葉樹林が広がっていましたが、蔵王山系の大洪水等の土砂で急激に森が埋め立てられ地下に埋もれたまま長い年月が経ちました。その木株が幾度かの洪水を経て河底が削れて姿を現したということだそうです。

ところで、写真には20本余り映っていましたが、数年前の現地視察に参加したところ、10数本しかないので山大の教授に質問したところ、洪水で流されて少しずつ減っており、対策が必要ということでした。

令和2年にも洪水があり、河川改修工事を行うこととなり、護岸工事場所に近い3本が撤去されることとなり掘り出されました。そのうち、一本は南山形コミュニティセンター前に、2本は山形県立博物館裏に、当面置かれることになったとのことです。



## 氷河期の埋没林

山形県上市市から山形市南部の須川には、宮脇・黒沢・谷柏地点で化石の立木が残っている。特に、ここ谷柏は最も良く見ることができる地点である。

この埋没林は、地質調査や花粉分析などから、約27,000年前の氷河時代の化石であることが明らかにされた。当時付近一帯は、エゾマツの仲間を主体とした針葉樹林が広がり、現在より雪の少ない寒冷な状況にあったことが判明している。

こうした立木が朽ちず残っているのは、大洪水等により急激に森が埋め立てられたため、南山形一帯の地下数mには広く「化石の森」が埋もれていると推定されており、昔の自然環境を知る貴重な自然遺産である。

2017年2月

東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト委員会  
山形県「未来に伝える山形の宝」事業



南山形地区を流れるところにあり、知らなければ杭のようにはしか見えません。岸辺には新興住宅地が広がっています。